

第5期第1回あま市まちづくり委員会会議録要旨

と き 令和2年8月26日(水)
午後2時00分～午後4時15分
ところ 美和総合福祉センター
すみれの里 2階 集会室

1 出席者等

委員	16名
事務局	7名
市民活動センター	1名
傍聴人	1名

2 市長あいさつ

- ・ 本委員会は、あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例に基づき、市民と行政パートナーシップによる、まちづくりの推進するための調査、審議を目的に設置されている。
- ・ 第4期のまちづくり委員会では、教育現場において市民活動を振興させるため、小学校3年生及び5年生を対象とした市民活動、そして市民協働のガイドブックのジュニア版及びヤング版を作成した。
- ・ 令和2年3月22日に市政施行10周年を迎えたため、記念事業としてシンボルマークと市の歌の作成について協議を進めた。
- ・ 第5期のあま市まちづくり委員会では、協働のためのルールブックを作成しルールブックの活用及び周知について審議いただきたい。

3 委員長及び副委員長の選出

あま市まちづくり委員会規則第5条の規定に基づき、第5期まちづくり委員会委員長には、小林優太委員が選出された。

副委員長は、委員長からの指名により佐藤亮治委員が選出された。

4 議題

(1)「市民協働のこれまで」

委員

ビジョン、いつ、どの、タイミングで、どういう姿を目指しているのか。委員会の成果について、PDCAをまわしているのか。PDCAサイクルを回さなければ一過性のものとなるため、成果に対して課題の提示も必要では。

委員長

PDCAサイクルは、回さないといけない。

事務局

あま市まちづくり委員会を経験した第4期まちづくり委員にて、第5期のテーマを決めた。

PDCAサイクルを回し、改善を行っている。限られた会議の回数の中でテーマを決め2年間で成果を市長に提言している。

各期で課題や現状を協議している。第1期は、市民活動センターの立ち上げ及び設置場所の選定、運營業務などを協議して提言書を提出。第2期は、市民活動センターを中

心に協働を進め、市民に周知するためのガイドブックを作成。第3期は、協働という裾野を広げていくため出前講座等を実施。第4期は、人口減少に鑑み、若い世代を巻き込んで意識の醸成を目的に、委員に学校の教員も加わり、あま市を担っていく人達に協働について意識を持ってもらうため、ガイドブックのジュニア版及びヤング版を作成。また、先生向けの「協働の道しるべ」を作成し、総合学習の時間等を活用し、学校に出向いて協働のガイドブックを活用した授業を行う予定。今後は、委員会が諮問機関として協働を進めていくため、ガイドラインの作成が必要であると判断し、第5期のテーマとした。

委員長

資料に協働のまちづくりが求められる背景と協働により期待される効果が明記され、行政だけでなく皆で進める連携関係を作ることで、期待される効果が生まれる。

市民活動センターが中心となり市民等と行政が簡単に繋がる仕組みが必要であるが、あま市にはあま市の課題があり、課題を解決するために、どこと、どこが、手を組めば良いのかと言った問題等を解消していくことが必要。

(2)協働のためのルールブック（仮称）について

委員長

協働に対して慣れている課とそうでない課があり基準などを設ける必要がある。

これまで、協働のガイドブックにより周知と理解を広め、さらに児童へも周知し、市全体的に広めてきたが、協働を行ううえでの足並みがそろっていない。ルールブックを作成することで市民活動センター及び市がコーディネートしやすくなる。

副委員長

ルールブックはゼロから作成するのか。専門的な知識が必要ではないか。

事務局

ゼロから作成は専門的な知識や調査が必要であり難しく時間がかかる。先進市のルールブックを参考にあま市にマッチングさせて作成していく。

市民活動センター

ビジョンは「交流と連携による一体感のまち」が総合計画に明記されている。

市民活動センターに市民活動団体として事業者は登録できないが、商工会という組織を活かし連携について議論したい。

自治体ごとに特色があるため、情報を提供し委員の皆さんと一緒にルールブックを作りあげたい。

5 その他

委員

あま市観光協会よりレシピコンテストを開催するため周知をお願いしたい。

事務局

次回の開催は、日程調整し通知する。